NSPA 2023

NIPPON SPA ASSOCIATION

Annual Report Vol.9

目次

理事長からのご挨拶に代えて 01
活動報告 02
SPA & WELLNESS JAPAN 2022セミナー概要 04
スパ＆ウェルネス論 11
APSWC 14
D&B抜粋 15
団体会員一覧 21

協会概要

名　称	特定非営利活動法人　日本スパ振興協会　通称：NSPA（エヌスパ）
URL	http://n-spa.org/
設　立	任意団体発足　2002年8月
法人化	2004年2月
代表者	岡田　友悟
所在地	176-0004 東京都練馬区小竹町2-8-8 E-mail：center@n-spa.org

2002年8月、スパの健全な発展と将来に関心のある市民が集まり、「市民に対するスパの利用方法に関する広報と啓発事業」を主目的とした任意団体「日本スパ振興協会」を設立しました。
その後、上記の目的を達成するため市民を対象とした広報活動などを進めて参りましたが、2004年2月に「特定非営利活動法人＝NPO」の認証を受けて法人化し、本年5月に「スパに関する知識の普及と啓発」をテーマにしたセミナーと展示会を開催するところまで歩んできました。
協会は、「スパ」に関する幅広い分野で、市民に対しスパに関する知識の普及を図る活動を推進すると共に、市民が安心して利用出来る環境づくりを実現するため、スパサービス提供者の水準を高める啓発活動を行うなど、公益に寄与することを目的とした非営利事業活動を行い、新しい日本独自の「スパ文化の振興」を推進して参ります。

日本スパ振興協会の目的

日本スパ振興協会は、心身の美と健康の維持・回復・増進を図る予防医学的サービスを総合的に行う「スパ」に関する分野において、スパサービス提供者の水準を高める指導・啓発活動、並びに不特定多数の市民に対する情報提供及び安全で効果的な利用方法など、スパに関する知識の普及を図り、市民が安心して利用出来る環境づくりを実現し、公益に寄与することを目的としております。

スパの広報普及活動

国際的なスパに関する会議と展示会

国際スパ協会と共催で、市民と業界に最新のスパ情報を伝える活動。

スパサービス従事者の質の向上を図る活動

スパ従業者を対象としたセミナーや研修等を定期的に実施して意識と技術の向上を図る活動を行い、市民が安心して利用できるスパを目指します。

理事長からのご挨拶に代えて

平素は協会の活動にご賛同、ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。
今春からコロナに関する規制も緩和されていますが、まだ完全に収束したとは言えず、コロナ前に戻ったとは言えない状況が続いています。このような状況下ですが、訪日外国人客は増加傾向で新設のホテル計画も多くあり、業界にとっては良い風も吹いています。
インバウンド歓迎の一方で、私たちは、訪日外国人客をあてにしすぎると大きなリスクとなることも経験しました。今後はより一層、日本人にも訪日外国人客にも目的をもって訪れてもらえる観光地を目指すべく、地域の魅力を磨き上げることが必要となってくるでしょう。今後、地域の魅力の一つとして、日本ならではのウエルネスはもっと注目されていくと思います。GWI（Global Wellness Institute）の調べでは、スパ、温泉、ウエルネスツーリズムは今後毎年前年比で約20％前後の成長が見込まれると予測しています。
NSPAでは、その地域ならではのウエルネスコンテンツを磨き上げることで日本ならではのウエルネスツーリズムの市場の拡大に寄与していきたいと思います。

特定非営利活動法人　日本スパ振興協会
理事長　**岡田友悟**

創立	法人設立	西暦	月	
元年		2002年	8月	任意団体として創立
1周年		2003年		2004年の国際会議に向けて会議を多数行う
2周年	元年	2004年	2月	内閣府より法人認可。5月8日から10日ISPA 2004JAPAN
			5月	5月8日から10日　日本初のスパに関する国際会議「ISPA 2004JAPAN」開催
3周年	1周年	2005年		スパ視察ツアー上海開催
4周年	2周年	2006年	4月	スパの定義制定
			5月	ビューティーワールド参加、スパのモデルルームを展示
			7月	スパベーシックブック刊行
			10月	ダイエット＆ビューティーフェアーに参加
			11月	スパアドバイザー検定（初級）を実施。全国で600名余りが受験（以後毎年開催）
5周年	3周年	2007年	5月	スパアドバイザー検定（プロフェッショナル）を行う（以後ない都市開催）
				スパ啓発の冊子「The Spa Guide」を発行
6周年	4周年	2008年	11月	沖縄で初のスパに関する国際会議「NSPA2008OKINAWA」開催
7周年	5周年	2009年	9月	ホテルレストランショーに参加。AQUA&SPA2009に出展
8周年	6周年	2010年	2月	NSPA2009TOKYOセミナーを開催
9周年	7周年	2011年	9月	第1回 スパ＆ウエルネスジャパンをUBMメディア㈱と共同開催（以後毎年開催）
				NSPA2009TOKYOセミナーを引き継いで、第2回スパシンポジウム開催（以後毎年開催）
				GLOBAL SPA SUMMIT（インドネシア・バリ）参加
10周年	8周年	2012年	9月	World Spa & Wellness Convention 2012（タイ・バンコク）を後援
			9月	タイスパ視察ツアーを開催。ジェトロと協力してタイの温泉、医療の視察と意見交換を行う。
11周年	9周年	2013年	2月	日本初の全国規模でのスパ普及イベント「スパ＆ウエルネスウィーク」を実行委員会として主催（尾後毎年開催・後援）
12周年	10周年	2014年	2月	日本初の大学の正規授業として「スパマネジメント論」の集中講義を国立大学法人琉球大学で行う（以後毎年開催）
			10月	World Spa & Wellness Convention 2014（タイ・バンコク）を後援。指圧を行い、日本代表としてパネルディスカッションに参加
			6月	2月8日を「スパの日」に制定。一般社団法人日本記念日協会に登録
13周年	11周年	2015年	10月	スリランカ　アーユルベーダ視察ツアーを開催
			11月	内閣府に国家戦略特区に外国人スパセラピスト就労の企画提案を行う
			10月	好評につき、スリランカ　アーユルベーダ視察ツアーⅡを開催
14周年	12周年	2016年	9月	「ウエルネスツーリズム」を琉球大学荒川教授とNSPA共著にて発刊
15周年	13周年	2017年	5月	大分県で開催された魁夷京商主催の全国温泉地サミットにて、NSPAの活動報告を行いました。
16周年	14周年	2018年	10月	ベトナム ダナン・フエへの視察ツアーを行いました。
			2月	第6回 琉球大学「スパマネジメント論」を開催
17周年	15周年	2019年	5月	スパアドバイザー検定を開催
			6月	第15回 総会を開催
			9月	第10回 スパ＆ウェルネスジャパン共催
				第12回 スパシンポジウム開催
18周年	16周年	2020年	1月	第7回 琉球大学「スパマネジメント論」を開催
			6月	第16回 社員総会開催（オンラインとのハイブリッド開催）
			9月	第11回 スパ＆ウェルネスジャパン
				初のオンラインセミナー開催
19周年	17周年	2021年	2月	第8回 琉球大学「スパマネジメント論」を開催（オンライン開催）
			6月	第17回 社員総会開催（オンラインとのハイブリッド開催）
			9月	第12回 スパ＆ウェルネスジャパン
20周年	18周年	2022年	2月	第9回 琉球大学「スパ＆ウェルネス論」を開催（オンライン開催）
			6月	第18回 社員総会開催（オンライン開催）
			9月	第13回 スパ＆ウェルネスジャパン
21周年	19周年	2023年	2月	第10回 琉球大学「スパ＆ウェルネス論」を開催（オンライン開催）
			6月	第19回 社員総会開催
			9月	第14回 スパ＆ウェルネスジャパン

日本スパ振興協会は令和4年度に以下の事業を行いました。

■ 事業運営に関する重要事項を検討、採決するため理事会を設置し、年に数回の会議を開催しています。

定例会議

定時総会：6/10 感染防止対策のため、オンラインとのハイブリッド形式で行いました。
令和3年度事業報告及び収支決算報告並びに令和3年度の事業計画案を会に諮り、承認されました。
理事会：4/8、5/13、6/10、9/14、10/14、12/9、R5.2/3、3/10

■「スパの正しい知識」を伝え、市民が「健康維持・回復・増進に貢献するスパ」、「安心してスパを利用できる環境づくり」を推進し普及・広報活動しています。

9/26　スパクリスタルアワード受賞式

「スパクリスタルアワード2022」日本のトップスパの受賞式をスパ＆ウエルネスジャパン内で行いました。
協会の認知と合わせ、業界関係者へスパウィークへの参加を呼びかけました。

R5.2/14～3/14　第11回スパ＆ウエルネスウィークイベント開催（共催）

スパの普及、認知のため、期間中定額料金でスパを利用できる広報企画です。
新型コロナウィルスによる自粛の影響で、例年より少ない参加店数での開催となりましたが、お客様アンケートでは好評をいただきました。

■ 国内外のスパに関する会議と展示会・セミナー等

スパに関する国際的な会議へ出席し、情報交換や海外へ日本のスパを発信しています。
また、国内外の展示会への出展や講演・パネリストでの参加などを積極的に行い、協会活動の広報のみならず、国内のスパを広く紹介しています。
日本の観光・文化は世界的に注目されており、温泉を含めた関連業界と連携するとともに、環境省や観光庁、自治体などが主催するイベントや会議にも参加し、意見交換を行っています。

9/26～28　スパ＆ウエルネスジャパン 2022　協賛・出展 / 第13回 スパ&ウエルネスシンポジウム共同開催

第14回スパシンポジウムは、Jウエルネス振興会との共催で日本のウエルネスについて掘り下げました。
第一部にて、「海外進出の事例紹介～海外進出の事例紹介と日本のウエルネスの魅力について」当協会の岡田理事長が講演しました。その他、当協会の土橋理事、武居理事が当展示会内で講演やプレゼンテーションを行いました。
当協会のブースを出展して協会の広報を行いました。

11/21、12/23、1/27、2/24　NPO法人健康と温泉フォーラムが主催する月例勉強会を共催しました。

岡田理事長、ケイ武居理事をはじめ多くの会員が参加しました。
ケイ武居理事が「温泉ウエルネス研究」に専門委員として参加しました。

■ スパサービス従事者の質の向上を図る活動

スパ従業者を対象としたセミナーや研修等を定期的に実施して、意識と技術の向上を図る活動を行っています。業界全体の向上が、市民が安心して利用できるスパを増やし業界の発展に繋がると考え、理事会の他に教育委員会を設け専門家からの意見も取り入れながら協会の指針を作っています。
また、検定や講座用のテキストとして、スパベーシックブックを常時販売しています。

スパアドバイザー検定試験実施

随時、スパアドバイザー初級・プロの検定を行っています。

スパアドバイザー検定対策セミナー開催（随時）

R5.2/25～27　「琉球大学 スパ＆ウェルネス論～基本からマネジメントまで～」開催

第10回目のスパ＆ウェルネス論は、沖縄 琉球大学が主催で当協会理事等が講師として招聘され、オンラインでの開催となりました。学生約35名及び社会人5名が参加しました。

■ 官庁への要望活動及び近隣業界との交流等

当協会はスパ業界の発展のため、当協会は官公庁への要望活動や近隣の業界団体とのネットワークを構築しています。
また、官公庁からの通達等を会員に案内、HPで告知し、情報を随時配信しています。

先端設備に係る仕様等証明書発行窓口

生産性向上設備投資促進税制にともない、当協会がスパ設備に関する証明書発行窓口を行っています。

近隣業界の総会やイベントへの参加

- 4/12～13　沖縄エステティック・スパ協同組合イベント
- 5/27　沖縄エステティック・スパ協同組合総会
- 6/1　日本サウナ・スパ協会 総会
- 6/2　健康と温泉フォーラム 総会
- 6/6　日本エステティック協会50周年
- 6/11～12　日本温泉気候物理医学会 学術総会
- 6/21　エステティックグランプリ ファイナル
- 6/26　健康百寿協会 総会
- R.5.1/18　沖縄県エステ・スパ協同組合 勉強会　他

■ 調査事業

12/16 新・湯治のセミナーにおいて、岡田理事長が、新・湯治効果に関する協同モデル調査（令和3年度）「健康意識改革のための温泉ウェルネスプログラム」の実施報告、関係者とのディスカッションを行いました。

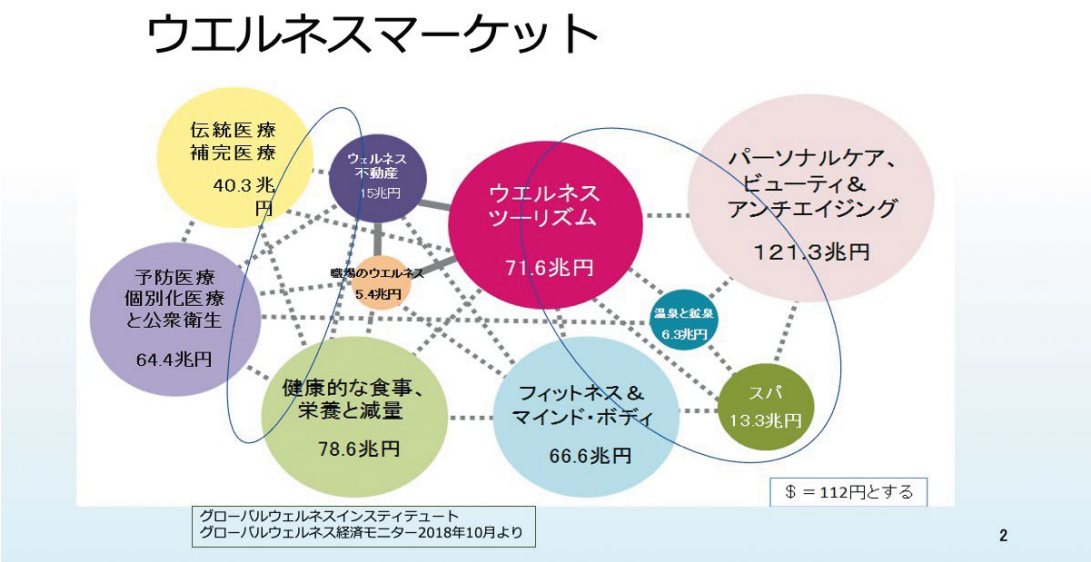
スパシンポジウム講演
『海外進出の事例紹介～海外進出の事例紹介と日本のウエルネスの魅力について』

【講演者】特定非営利活動法人 日本スパ振興協会 理事長　岡田友悟

2022年9月27日　於 東京ビッグサイト

新型コロナウイルスの感染前は訪日観光客の数が増え続け、日本を経験した外国人が大変増えました。コロナの影響でこの3年間極端に減りましたが、日本にまた行きたいという潜在数は拡大しています。
コロナ禍の日本政策投資銀行が行った、アジア、欧米豪の居住者へのアンケートではともに日本がトップになりました。コロナ禍においても海外、特にアジアで日本の安心安全、清潔、温泉、日本食などに対するあこがれは拡大し続けています。その中で、特にアジアの国では、日本食レストランや温泉施設の開業が進んでいます。日本のウエルネスの海外進出の事例を交えてお話しいたします。

グローバルウエルネスインスティテュートによると、スパ、温泉、ウエルネスツーリズムの市場は大きくなってきており、今後毎年２０％程度の伸長を示すといわれています。※資料1
日本ならではのスパ、ツーリズムを考えるときに温泉は重要な要素であり、スパの分類の上でもお火事で示したもの以外でも温泉を利用している施設がたくさんあります。※資料2
数の上でも、質でも日本は世界一の温泉大国といえます。また日本には多くの銭湯やスーパー銭湯などもあり、家庭での入浴習慣もあり、世界一入浴回数の多い国ともいえます。※資料3



〔資料1〕

ＮＳＰＡによるスパの分類

	滞在型	非滞在型
一般型	デスティネーションスパ ホテルスパ リゾートスパ クルージングスパ 温泉スパ（旅館なども）	デイスパ ホテルスパ ビューティースパ クラブスパ 温泉スパ（ス-パ-銭湯なども） アミューズメント型スパ
医療型	メディカルスパ、温泉病院	メディカルスパ

スパ ベーシックブックより　2006年発刊

〔資料2〕

日本のスパ（温泉）の現状

温泉スパ
日本には2,971の温泉地があり、39,000軒の旅館がある

健康ランド・サウナ・スーパー銭湯
日本では住宅地を中心に日帰り温浴施設が多く存在する約26000軒

ホテルスパ・リゾートスパ　約700軒（独自推計）

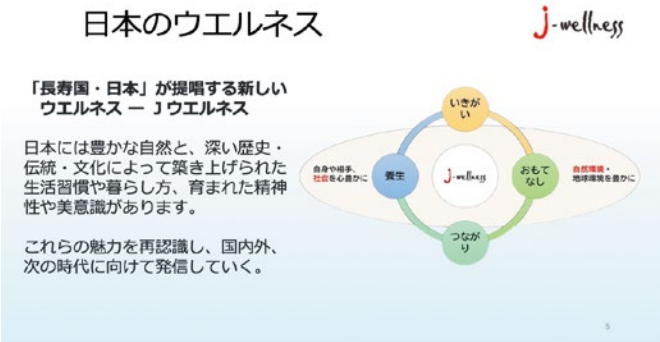
他、フィットネス系・メディカル系など多数のタイプがある

* 環境省温泉利用状況より
* 厚生労働省調査より

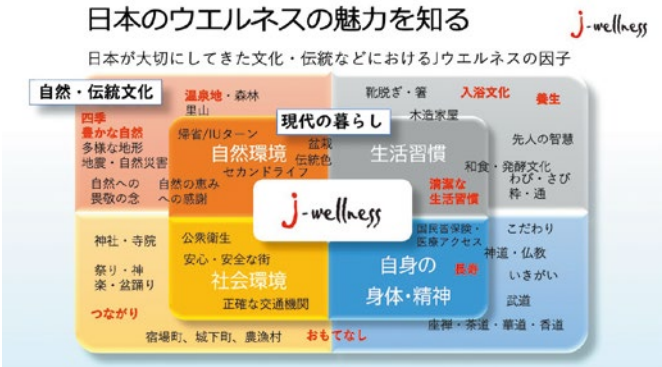
〔資料3〕

日本ならではのウエルネスを「Jウエルネス」と呼び、今注目を集めている。世界一の長寿国である日本。古くからある養生の考え方、おもてなしの心そこから生まれてくる人とのつながりや生きがいが長寿につながっています。※資料4

Jウエルネスの考え方です。
日本人が大切にしてきた日本の文化・伝統。その中で現代の暮らしにも生かされている日本のウエルネスです。※資料5
冒頭に書いたように訪日外国人数の推移です。新型コロナウイルスの収束に伴いまた人数は増加していくのは間違いありません。ただ、今後は数だけではなく、その質、日本に行って何がしたいか、何が体験できるかが重要になります。



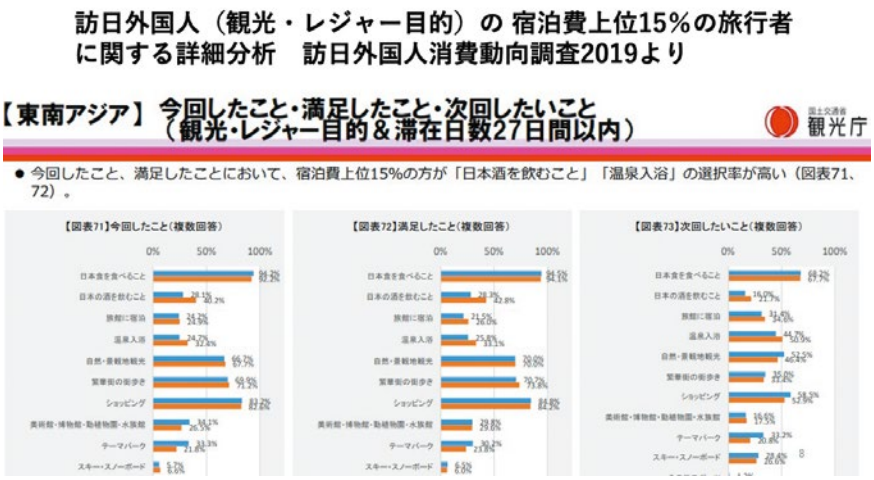
〔資料4〕



〔資料5〕

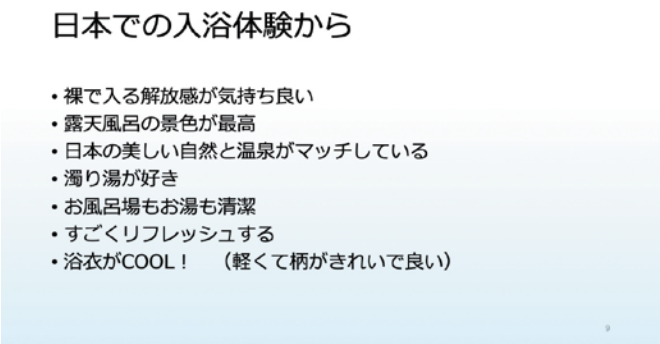
観光庁の調査報告です。※資料6
宿泊費上位15％の旅行者が上の青のグラフ、下位85％が下のオレンジのグラフです。
体験・満足よりも、次回の希望が明らかに高くなっているのは「旅館に宿泊」、「温泉入浴」と「スキー・スノーボード」となっています。※資料7

〔資料6〕

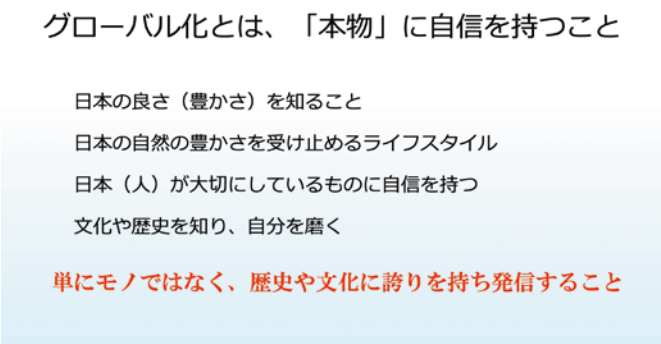


〔資料7〕

アジアの国々では入浴習慣のほとんどない国もあります。もちろん富裕層は自宅にバスタブを持ち、入浴する人もいますが、多人数が裸で入浴するという習慣が古くからある国はほぼありません。ですから、日本での温泉体験は非常にインパクトがあるそうです。※資料8　日本の良さを外国人に伝えるには、まず私たちが日本の良さ、文化・伝統を知ること。そして本物を伝えることが必要です。※資料9



〔資料8〕



〔資料9〕

森の湯は、タイバンコクプロンポンに2012年にオープンした温泉を利用した所謂スーパー銭湯です。2016年パタヤ、バンコクの2件目のサトーン店は2020年7月オープン。
現在、タイに3店舗、シンガポールに1店舗の計4店舗を展開しています。※資料10
陽光温泉は、ベトナム　クアンニン省に2020年にオープンした施設です。非常に大型の温泉入浴施設で、利用料金も高額ですが、大変人気の施設です。※資料11

〔資料10〕

〔資料11〕

LYYM BEAUTY ACADEMYは、日本国内にエステティックサロンの他、日本エステティック協会の認定校、ベトナム料理レストラン、美容室などを展開する企業で、2023年にベトナム　ホーチミン市で日本のおもてなしや技術を学べる専門学校を開校するにあたり、2022年8月にそのプレス発表会を行いました。※資料12

〔資料12〕

Bang Onsen Resortは第1期から3期までの大規模開発で、第1期の温泉利用施設は2023年開業予定です。
※資料13

〔資料13〕

第1期の施設はホテルと日本型温泉施設、水着着用の温泉プールゾーン、子供も遊べる水着着用のファミリー向け温泉利用施設の3施設で構成されています。第２期の開発では、ヴィラエリア、公園、遊園地などで構成され、第3期ではゴルフ場なども計画されています。※資料14
第1期のホテル、温泉のイメージです。サウナや岩盤浴、トリートメントルームも充実しています。※資料15

〔資料14〕

〔資料15〕

ベトナムではこのほかにも、大規模タウンシップ計画がいくつもあり、その中に温泉利用の施設や分譲住宅にも温泉を引いているものもあります。この流れはタイやベトナムだけではなくアジア各国に広がっていくと思います。これらの施設が、日本の文化・伝統をきちんと理解し、安心安全、清潔、ふれあい、つながりなど長く人々に愛される施設となって欲しいと思っています。

ホテル・旅館の新戦略～経営者が考える新しい滞在型観光の姿とは
第一部 課題「新・湯治のコンテンツモデル、健康効果モデル調査事業」について紹介
『健康意識改革のための温泉ウエルネスプログラム』

【講演者】特定非営利活動法人 日本スパ振興協会 理事長　ケイ武居

2022年9月27日　於 東京ビッグサイト

日本スパ振興協会が主体となり愛知医科大学整形外科学講座の池上医師の監修のもと、山梨県北杜市にある増冨ラジウム温泉郷にて、健康意識改革のための温泉ウエルネスプログラムを企画し、実証実験を行いました。

主目的

温泉入浴と自然環境でのアクティビティ等のウエルネスプログラムを体験し、意識改革により生活習慣の改善やQOLが改善、向上することを期待し、都市部で働く成人を対象に非観血型血糖値モニタリングキットを用いて血糖値の変化（プログラム実施前、プログラム期間中、プログラム体験の1か月後の数値）を可視化し、プログラムの効果の検証を行いました。
其の他、複数のアンケート評価と合わせて、生活の全般の数値化により改善点を見える化することで被験者の生活習慣の改善に意識を向けてもらうことを目的としました。

調査内容

調査対象者12名に対し、非観血型持続血糖値モニタリングキットを配布し、プログラム実施前の通常の生活で7日間血糖値をモニターし、その後、温泉地での入浴、自然環境の中での軽い運動、地元食材を使ったヘルシーで低カロリー食を組み合わせた2泊3日のプログラムを体験し、プログラム期間を含んだ6日間程度血糖値の変化をモニターしました。さらに、プログラム体験の1か月後、日常生活を送りながら再びモニター機器を2週間装着し血糖値をモニターしました。
この実証実験の期間中に、健康関連QOL尺度アンケート、ケスラー6項目心理ストレス尺度、ピッツバーグ睡眠質問法の3種類のアンケート調査を行い、被検者本人の意識変化や主観的評価も併せて行いました。

ウエルネスプログラムの内容

日本百名山にも選定されている奥秩秩父山塊の瑞牆山をはじめとする雄大な山々にかこまれた山梨県増冨ラジウム温泉郷にて温泉と食事と自然散策を組み合わせて2泊3日のプログラムを実施しました。ネイチャーガイドの案内でセラピーロードにて軽い運動を行い、まずは各々自分の体との対話を促しました。また、自然散策中に増冨の季節の花や葉、樹皮など採取し持ち帰り蒸留器で蒸留し、オリジナルの増冨の香りつくりを体験し、出来上がった芳香蒸留水はスプレーボトルに入れてプログラム中に各自利用しました。夜には、森の枯れ木や間伐材を利用した焚火を静かに囲んだり、寝袋に入って流れ星や星座観察など都会暮らしでは味わえないひと時を楽しみました。食事は、主に地元山梨の食材の良さを生かし、肉を使わない健康食でありながら毎食バラエティーに富むメニューを工夫し個食にて提供しました。温泉浴については、増冨のラジウム泉はぬる湯の温泉に30分～1時間かけてゆっくり入る入浴法が一般的なので、入浴方法や呼吸法、休憩、水分摂取についても事前説明を十分に行いました。今回、血糖値 モニター機器を上腕上部に装着しているため温泉水の侵入等の影響を避けるべく装着部を防水用シールで覆い、上腕部を水面より拳上し濡れないように注意しました。朝は、朝食の前に、広いグランドで体を目覚めさせるように朝日を浴びて簡単な呼吸法やストレッチを行った後、各自のペースで制限を設けずゆっくり食事時間を設けました。自然散策中にラジウム岩の上での瞑想や、素足で川に浸かったり、河原の石を積み上げるロックバランシング、ラジウム岩壁を仰ぎながらの外気浴気功、川沿いの遊歩道散策など増冨温泉郷の自然環境資源を利用したアクティビティを行いました。

調査結果

3日間のプログラム実施期間中、血糖値の変動が少なかったことを示すデータが得られ、期間中の主観的及び客観的な健康関連指標の改善効果が証明されました。被験者の多くから「ぐっすり眠れた」「便通が良い」「朝の目覚めが良い」など全般的に体調がよかっ たとの意見が寄せられました。血糖値の一日の中における変動が体に負担をかけると言われていますが、今回の調査ではプログラム中は日内の血糖値の変動が少なかったことが分かりました。

考察

これらの結果を踏まえて、良好な生活習慣を継続させるため定期的なプログラム利用が有効であること、そしてその効果を利用者に定期的にフィードバックすることで、利用者の健康意識を改善し、定着させることで生活習慣病の予防へとつながるとと考えられます。今後、ほかの温泉地でのプログラムに応用できる可能性もあり、それぞれのウエルネス地域でのプログラム利用が健康メンテナンスの選択肢と考えられるように望みます。

スパシンポジウム講演
『日本のウエルネスツーリズム始動の絶対条件とは』

【講演者】特定非営利活動法人 日本スパ振興協会 理事　土橋 告

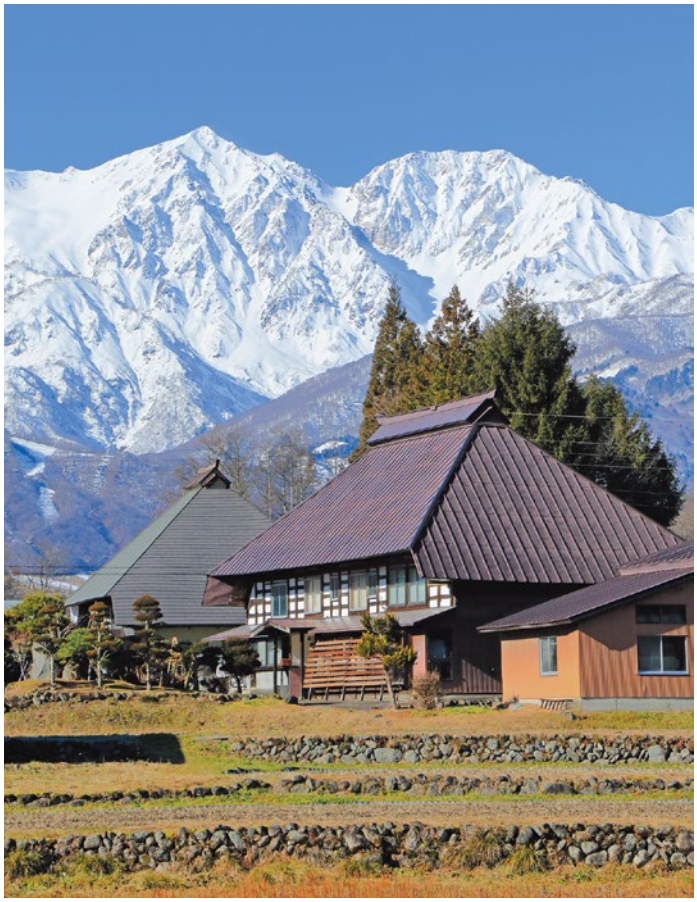
2022年9月27日　於 東京ビッグサイト

日本観光の弱点を洗い出し、世界で勝てるツーリズムモデルを考える

日本においてウエルネスツーリズムが語られるようになって10年以上経過するが、肝心の日本のツーリズム業界はウエルネスツーリズムを語らず、興味も持っていないように思える。世界がウエルネスツーリズムをコアとするウエルネス経済と称する経済概念が誕生しているというのに、である。
ウエルネスツーリズムの先進諸国を見ると、そのどれもがホテル業界のリードによるものであり、それも、民族系、独立系ホテルが中心的な役割をになって誕生してきている。しかし、日本は世界で最もウエルネスコンテンツに恵まれた国なのだが、「灯台下暗し」とでもいうのか、ホテル・旅館オーナーやリゾートデベロッパーは世界のウエルネストレンドでの役割を果たそうとはしていないように思える。

現在コロナ禍後の世界のツーリズムトレンドとしてジャパンブームが起きており、日本のインバウンド業界では、昨年10月11日以降の大幅な水際対策緩和により繁忙状態が続いている。直近の海外ツーリストの市場意識調査（DBJ/JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査2022年版）では、目的地として日本を選ぶ人が圧倒的に多く、その内訳も、都市より地方での経験を求めている人がアジアからでは90%前後、欧米豪ではほぼ80%となっている。そしてその目的は、自然・史跡・伝統的日本料理・地方料理・温泉・世界遺産・庭園・等々が上位となり、都会での街歩き・ショッピング・テーマパークなどは全くの下位に位置している。つまり、海外からのツーリストは日本のウエルネス体験を求めていることが明確なわけだ。しかし、諸外国にあるようなウエルネスリゾートは日本にはなく、結果として彼らは日本のウエルネスコンテンツをつまみ食い的に体験しながらの周遊型旅行となっている。

一方国内旅行においても、コロナ禍を経験することで自身の健康と免疫システムへの認識が高まり、ウエルネスを体験するべく滞在型のリゾートを求めるべきなのだが、需要はあるにしても供給側にその体制がまだなされていない。あるいは供給側にその意志そのものがあるのかはなはだ疑問に思える。確かに、全国的に見て少しずつではあるがウエルネスを指向したリゾートや、小さなコミュニティーでのリゾートヴィレッジといえるような場所で、ソフトコンテンツの紹介や体験がなされるようになってきてはいるが、大勢は1泊2日の温泉旅行か、日帰りでの体験となり、大きなトレンドを形成するまでにはなっていない。そして、このコロナ禍で体力を使い果たした地方の温泉リゾート（旅館）などは、コロナ後の復興やインバウンドの恩恵にも預かれず消滅への道筋を歩み続けているように見える。
これは、需要と供給のミスマッチと言ってよい状況だろう。



これらネガティブな状況で、ではどのようにすれば日本にもウエルネスツーリズムが誕生してくるのかを検討した思案を、NSPA理事の土橋が「スパ&ウエルネス ジャパン」で発表している。
それは、ウエルネス環境の整った村や集落が一つのリゾートとして運営をする方法。
豊かなウエルネスコンテンツが揃っていればソフトでウエルネスリゾートは構成できる。
あとは、運営主体の確立とマーケティング次第で、日本ならではのウエルネスリゾートができるだろうというもの。
資金はなくとも、知恵があればということだ。

琉球大学
「スパ&ウェルネス論」

毎年沖縄県の国立大学琉球大学で行われる「スパマネジメント論」も10回目を迎えました。昨年より「スパ＆ウェルネス論」としてより幅広く学生に興味と知識をもってもらえるようになりました。今年も新型コロナウイルスの影響を考え。大勢が集まって、グループワークを行うのは不適切と考え、ウェブ授業となりました。2023年2月25日（日）～27日（月）の3日間、学生約35名と社会人5名の約40名で行われました。
講師陣にはNSPAから岡田理事長をはじめ専門家講師と昨年から加わった沖縄県エステティック・スパ協同組合の識名理事長と川島監事にも参加いただき、スパ施設からのライブ中継による学生へのスパの啓発や沖縄らしさを取り入れた授業も行われました。
昨年はグループワークでのプレゼンテーションができなかったために個人でのレポート提出となりましたが、今年はzoomのブレイクアウト機能を使ってグループワークも行い、学生、社会人も一緒に8のグループに分け、「ウェルネススパの宿泊プラン」の企画提案をパワーポイントで作成し持ち時間8分でプレゼンテーションすることになりました。それを講師が1.コンセント、2.ターゲット、3.地域性、4.プログラム、5.SDGs,CSVの5項目について採点し、1位から3位を決めました。
1位にはグループ1の「キクミネーションツアー」と「NANJO WELLNESS TOURISM」が同点で選ばれました。
参加者からは非常に実践的で有意義な3日間との評価をいただきました。

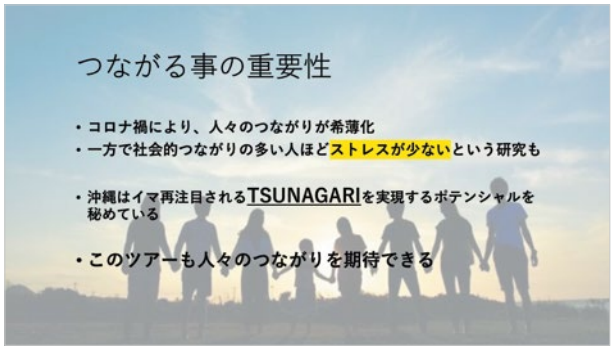
講義名：琉球大学国際地域創造学部ウェルネス研究分野専門科目「スパ&ウェルネス論　～基本からマネジメントまで～」
日程：2023年2月25日（土）、26（日）、27日（月）
協力：特定非営利法人日本スパ振興協会（NSPA）、沖縄県エステティック・スパ協同組合

SPA業界の第一線で活動する産学専門家による日本初のSPA大学正規授業科目（初年度2014年～）
Afterコロナにおける新しいライフスタイル・ウェルネスツーリズムの価値創造を考える3日間集中講義

（敬称略）

月日	No.	時間	講義タイトル	講義概要	講師名	講師所属・役職等	実施場所
2月25日 土曜日	1	8:30–10:00	スパ概論	スパの基礎知識と日本のスパ市場と温泉	岡田 友悟	NPO日本スパ振興協会 理事長	
	2	10:20–11:50	ウェルネス概論	ウェルネスの進化とウェルネスツーリズム	荒川 雅志	琉球大学国際地域創造学部ウェルネス研究分野 教授	
	3	12:50–14:20	スパのメニュー　1	スパトリートメントの基本　ハンドトリートメント体験	川島 直巳	沖縄県エステティック・スパ協同組合　監事 アイランドヒーリング 株式会社　代表取締役	
			スパのメニュー　2	沖縄オリジナルトリートメント「琉球でぃんなでぃ®」	識名 由美	沖縄県エステティック・スパ協同組合　理事長 株式会社ASファクトリー　代表取締役	
	4	14:30–16:00	スパのリスクマネジメント	ホスピタリティ産業のリスクマネジメント	平野 典男	琉球大学国際地域創造学部 名誉教授	
	5	16:10–17:50	セッション	アフターコロナのウェルネスを考える		グループワーク	
2月26日 日曜日	6	8:30–10:00	Jウエルネスとは	新たな日本のウェルネス産業を考える／Withコロナの健康・美容産業を指数で分析する	江渕　敦	インフォーマ マーケッツ ジャパン(株)・ダイエット&ビューティー編集長 Jウエルネス振興会代表	
	7	10:20–11:50	スパ・ウェルネス産業の世界動向とイノベーション	▸世界市場の分析とビジネスモデルの考え方	丸山 智規	三井情報株式会社 DX 営業本部 DX・バイオ・ヘルスケア営業部 チーフコンサルタント／マネージャー	
	8	12:50–14:20	スパデザイン・環境	スパ＆ウェルネス施設の環境設計	浜田 幸康	P.D.S.アーキテクツ一級建築士事務所 代表取締役	
	9	14:30–16:00	世界のウェルネスマーケティング	ホテルスパにおけるファイナンス計画と事業戦略	相馬 順子	(株)コンセプトアジア 代表取締役 GWS　ボードメンバー兼2019年サミットCo-Chair	
	10	16:10–17:50	セッション	アフターコロナのウェルネスを考える		グループワーク	
2月27日 月曜日	11	9:00–10:00	スパのメニュー	ヨガ実習	長島 千比呂	kSaNa　Yoga School 主宰 全米ヨガアライアンス上級指導者（E-RYT500） インド中央政府公認ヨーガインストラクター	
	12	10:20–11:50	日本のスパ&ウエルネス産業の実態	Withコロナの健康・美容産業を指数で分析する	江渕　敦	インフォーマ マーケッツ ジャパン(株) ダイエット&ビューティー編集長/Jウエルネス振興会 代表	
	13	12:50–14:20	ウェルネススパの事例	タラソセラピースパの事例	図師 理佳	タビックタラソセンター支配人 琉球大学ウェルネス研究分野プロジェクトマネージャー	
	14	14:30–16:00	セッション	アフターコロナのウェルネスを考える		グループワーク	
	15	16:10–17:50	セッション	アフターコロナのウェルネスを考える		グループワークまとめ/発表	

キクミネーションツアー



※パワーポイント資料抜粋

NANJO WELLNESS TOURISM

1泊2日

NANJO WELLNES TOURISM

～ニライカナイで五感が”ととのう”ウェルネスツアー～

藤本雄太　永山遥香　屋良朝裕　山崎悠花　仲田玲亜

社会的背景

【沖縄観光の現状と課題】
・夏場を中心とした8月と春休みにあたる3月に観光客が集中する傾向
→繁忙期と閑散期の来訪者数の差が大きい

NANJO WELLNES TOURISM

～ニライカナイで五感が”ととのう”ウェルネスツアー～

1泊2日の短期滞在プラン

実施する地域

南城市

<理由>
・那覇空港に近い
・美しい海岸景観や貴重なさんご礁の海を持つ臨海地域には様々なビーチが点在している
・東海岸側に位置し、日の出を眺めることが出来る
・眺望に優れたお洒落なカフェや喫茶店が多い
↓
これらの地域資源を活かしたツアーの計画

ターゲットと価格

・ターゲット
都市部で生活、勤務するサウナ初心者の20代、30代男性グループ
→都市部では体験できない休暇を

**忙しい人でも体と心をリフレッシュできるような
1泊2日の短期滞在プラン**

・価格　￥30,000~¥60,000/1人あたり（2～5名）
〈宿泊代＋食事代＋Rimo＋移動費＋移動式サウナ代　込み〉

目玉コンテンツ

冬のビーチでサウナ体験

移動式サウナを利用した、南城市のビーチでサウナ

〈水風呂代わりの海水浴　＋
砂浜や浮き輪で外気浴・日光浴〉

熱波師はサンニンの葉を使い、香りでリラックス

サウナ後に、タンカンジュースや
シークヮーサージュースでリフレッシュ
月桃茶にてストレスの緩和

冬の沖縄の海×サウナ

- 冬は水温が夏よりも低くプランクトンが減少するため、海水の透明度が高く綺麗に見える
- 冬季の沖縄の海水温（21～22℃）はサウナビギナーズに最適

サウナ初心者は低温の水風呂（一般的に7℃～14℃）との声
→冷たすぎない水風呂で”ととのう”体験

- 自然を感じられ、体だけじゃなく心からの”ととのう”体験

※パワーポイント資料抜粋

今回、シンガポールのセントーサ島にあるアマラサンクチュアリーリゾートで開催されましたAPSWCの年次総会、アワード、並びにラウンドテーブル2023（2023年3月15日から3月17日）に日本スパ振興協会(NSPA)を代表して参加して参りました。

APSWC2023にはオーストラリア、シンガポール、マレーシア、ネパール、インドネシア、タイ、フィリピン、日本を含む8カ国から総勢27名が参加。

まず初日の年次総会では理事長の活動報告、その後各理事からの活動報告があり、最後に以下の通り2つのポジションと4人の理事選任議案について審議され承認可決されました。

Board Election (2023-2025)
- Treasurer：新任
- Secretary：再任
- Director – Knowledge：再任
- Director – Membership：再任
- Director – Business Development-Service：再任
- Director – Technology：再任

2023-2025年度も引き続きBusiness Development -Servicesの理事として私が務めることになりました。

次に今回初の取り組みとしてAPSWCのアワードが開催されました。12の部門に対して事前に自薦他薦方式にて候補者を募り、それぞれの基準を満たした候補者から投票にて受賞者を選出する方法が取られ、当日のセレモニーにて各受賞者が発表されました。
アワードの部門別受賞者は以下の通りです。

APSWC Awards Category Winner
- Best Wellness Menu of the Year：Bondahaven Sdn Bhd
- Employer of the Year：sen Spa at The American Club
- Trainer of the Year：Orni Yusniza Othman
- Product Partner of the Year：IplusQ Co.
- Supplier of the Year：Cemaraayu
- Management Co. of the Year：AS Factory Co.
- Newcomer of the Year：Panari Spa at Lihim Resorts
- Wellness Business Innovation of the Year：Tanamera Post Natal
- Sustainability Champion of the Year：The Retreat Spa at Okada Manila
- Socially Responsible Business of the Year：Martha Tillaar Spa
- Rising Star of the Year：Hana Halim
- Lifetime Achievement Award：Andrew Jacka

詳細はURLにてご確認ください。 https://www.apswc.org/awards-winner/

日本からは株式会社ASファクトリー（沖縄県那覇市、代表取締役識名由美）がアワードにエントリーし、見事「マネジメントカンパニーオブザイヤー」を受賞しました。「マネジメントカンパニーオブザイヤー」の基準項目は11あり、そのすべてを満たし評価基準をクリアできたのはエントリーした法人の中で唯一1社のみでした。代表の識名氏が出席できなかったため、私が会場にて代理受賞し後日岡田理事長と共に識名代表へ贈呈させていただきました。

APSWCはSDGsへの積極的な取り組みを行っており、今回APSWCのアワードで贈呈された盾は、シンガポール国内で回収された箸が使用されており、1つ当たり320本、合計で3840本が有効活用されリサイクルされています。

最後に2日間ラウンドテーブルが開催され4つの議題に対してAPSWCホワイトペーパー（白書）2023を作成するための議論がなされました。
それぞれの議題は以下の通りです。

- Session 1:Wellness by Design
- Session 2:Technological Wellness or Electronic Nightmare
- Session 3:Business by Numbers
- Session 4:Traditional Therapies

ホワイトペーパー2023を作成するにあたり以下のプロセスが取られました。

①各議題に対して4つのグループに分かれて意見交換
②グループ毎で一つにまとめたものをグループリーダーが発表
③4つのグループから上がった内容を一つに集約
④同じ質問を「ChatGPT」に投げかけてAIの回答を出す
⑤グループディスカッションから導いた回答と「ChatGPT」からの回答を照らし合わせて再度議論を交わす
⑥最終ホワイトペーパーに盛り込む内容を精査

今話題の「ChatGPT」を活用し、人が導いた回答とAIが導き出した回答をぶつける議論はとても新鮮で時代の変化を感じました。
あと1期2年間も日本スパ振興協会を代表して理事としてしっかり役割を果たすとともに、アジア太平洋地域の情報を日本へ、日本の情報をアジア太平洋地域へ発信してまいります。

報告：高 智光

NSPA団体会員様

スパ施設	株式会社飯田産業(江の島アイランドスパ)	https://www.enospa.jp
	株式会社OMGホールディングス	https://omg-holdings.co.jp
	べにや無何有「円庭施術院」	https://www.mukayu.com
	Lapidem株式会社	https://lapidem.co.jp
スパオペレーション	EGAO株式会社	https://www.egao.website
	株式会社サンリツ	https://www.montsaintmichel.jp
	株式会社パシフィック・ホスピタリティー・グループ	https://phg-spa.com
	有限会社パナ・ン	https://pana-n.jp
	株式会社リバース東京	https://www.rebirth-tokyo.co.jp
学校・教育機関	学校法人古武学園 高津理容美容専門学校	https://www.kozu.ac.jp
化粧品等メーカー	クラシエホームプロダクツ販売株式会社	https://www.kracie.co.jp
	スタービューティー株式会社	
	株式会社ポーラ	https://www.pola.co.jp
スパ関連用品メーカー	貝印カミソリ株式会社	https://www.kai-group.com
	株式会社コネクト	https://www.enherb.jp
	シック・ジャパン株式会社	https://www.schick-jp.com
	タカラベルモント株式会社	https://www.takarabelmont.co.jp
	滝川株式会社	https://www.takigawa.co.jp
	株式会社日祥商会	http://www.nissho-s.co.jp
	健美薬湯株式会社	https://kenbiyakuto.com
スパ設計・設備・施工	株式会社アクアエンタープライズ	https://www.aquaenterprise.co.jp
	テクノ・オーシャン株式会社	https://techno-ocean.co.jp
	株式会社トリリオン	https://www.trillion.jp
	株式会社メトス	https://metos.co.jp
コンサルティング	株式会社ネスパ	https://nespa.com
	株式会社ヒューマンリソースコミュニケーションズ	http://www.augustya.co.jp
その他	沖縄県エステティック・スパ協同組合	https://okispa.com
	一般社団法人健康百寿協会	http://life-extension-association.org
	一般財団法人国際指圧普及財団	https://shiatsu-foundation.org
	一般社団法人日本化粧品検定協会	https://cosme-ken.org
	税理士法人依田会計	https://www.yodacpa.co.jp

*五十音順　2023年3月末現在

NSPA2023（非売品） 2023年5月1日発行
発行者 NPO 日本スパ振興協会
http://n-spa.org/ E-mail：center@n-spa.org